

# 学校支援活動事業訪問

## 福島市訪問【福島市立飯野小学校】

訪問日：平成30年7月17日（火）14：00～15：30

場所：福島市立飯野小学校

内容：6年「水墨画体験教室」での学習支援ボランティア

日本の伝統文化である墨絵についての理解を深めるために、県墨画会から3名のボランティアの講師を迎え、水墨画の体験を行いました。

子どもたちは、水墨画の歴史と特徴について説明を聞いたり、基本的な技法の指導を受けたりした後、実際に墨と水を使って筆を走らせました。みんな初めての体験で、水のつけ具合で偶然にできる墨の濃淡や筆づかいによって生まれる墨のかすれ具合に目を輝かせていました。

ボランティアの方々は、子どもたち一人一人に対し技術的なアドバイスをしたり、その子の良さや頑張りを認める言葉掛けをしたりしながら、子どもたちの意欲を高めていました。子どもたちは、ボランティアの方々の支援を受けながら、「なす」「竹」「めだか」「えび」「いちご」など、思い思いの水墨画を仕上げ、嬉しそうに見せ合っていました。

### 児童の感想

- ・教科書の絵を見て、どうやってかいたんだろうと不思議だったけれど、自分でやってみてかき方が分かった。
- ・簡単そうに見えたけれど、実際にやってみると難しかった。雪舟はすごいと思った。

### ボランティアの方の声

自分たちは、定年後に水墨画を始めた。何かを始めることに遅すぎるということはない。自分がやりたいと思ったときにやってみればそれでよい。今日の体験をきっかけに、子どもたちに水墨画に興味をもってもらいたいと思う。



### 校長先生の思い

教科書にある水墨画の写真を見ても実感を持った理解にはならない。実際に自分でかいてみることによって、知識だけでは得られない深い学びが可能になる。それは、子どもたちの心の中にずっと残っていくと思う。学校支援活動事業で、専門的な指導を受けられることは、体験を伴った深い学びを実現する上で、とても有効であると感じている。



今回の学校支援活動を通して「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて必要になること（目標を社会と共有すること、求める資質や能力を明確にすること、社会と連携して進めていくこと）の重要性を改めて感じました。「本時の水墨画の体験は子どもたちの心のどこかに残っていくはず。将来、人生の岐路に立ったとき、墨絵でもかいてみるかと思うときが来るかもしれない」と校長先生が話されていました。体験して学んだことはいつか自分の可能性を広げるための種になっていくと感じました。子どもたちがこれからの時代を力強く生きていく上で、地域の方々との連携が不可欠なものであることを再確認した訪問となりました。